

第1回首都圏空港機能強化の具体化に向けた協議会 議事要旨

日時：平成26年8月26日（火）13:00～14:30

場所：中央合同庁舎3号館11階特別会議室

1. 協議会の趣旨について

- 首都圏空港機能強化技術検討小委員会が取りまとめた技術的な選択肢をもとに、関係者の意見をお聴きし、出来る限り広く理解が得られるような具体策を作り上げていくために設置。

2. 技術検討小委員会が取りまとめた中間取りまとめ等について

- 国から、首都圏空港の機能強化の必要性、技術的な選択肢について説明。
- 国から、技術的な選択肢について、
 - (1) 2020年までに実現し得る以下の方策の具体化について提案。
 - ①羽田空港（最大で年間+3.9万回）
 - ・ 現行経路による時間値向上（80→82回/時）
 - ・ 飛行経路の見直し（80→90回/時）
 - 南風時②案：都心着陸経路、B滑走路から川崎側への出発経路
 - 北風時①案：荒川遡上出発経路
 - ②成田空港（年間+4万回）
 - ・ 管制機能の高度化、高速離脱誘導路の整備による時間値向上（64→72回/時）
 - (2) 2020年以降の方策（滑走路増設等）については、引き続き検討。
 - なお、成田空港については、航空会社等の意見を聞きつつ、成田空港の将来像等について検討を深めることを提案。

3. ご出席者の主なご意見

(1) 東京都関係

①東京都 安藤立美副知事

- 都は、これまで、羽田空港の機能強化と国際化に積極的に取り組んできた。特に、D滑走路の整備に対し、約1,000億円に及ぶ無利子貸付

を行うなど、容量拡大に貢献してきたところ。

- 世界一の都市・東京を標榜する都として、また、2020年のオリンピック・パラリンピックの開催やその後を見据えると、羽田空港の機能強化は必要不可欠であると考えている。
- 今回示された案は、学識経験者による、これまでの制約を排除したうえで滑走路の最大活用を図った技術的な選択肢の一つであり、実施に際しては、今後、地元の理解と協力が前提であると認識している。
- 関係区市からは、騒音の影響、安全性等について意見が寄せられており、こうした地元の意見に対して、国において丁寧に説明され、正確な情報を提供頂くことにより、羽田空港の機能強化が図られることを強く期待している。

②特別区長会 西川太一郎会長（荒川区長）

- これまで経路下で騒音影響を受けてきた千葉県、千葉市に敬意。
- 首都圏空港機能強化は、東京オリンピック・パラリンピック開催を控えた中、特別区をはじめ地域の振興を考える上でも大きな課題と認識。
- 今後、関係自治体の住民が安心して暮らせるような結論を導くために、丁寧な説明、協議をお願いする。23区のエゴを言うつもりはない。

(2) 千葉県関係

①千葉県 諸橋省明副知事

- 成田空港については、既に有している豊富でバランスの良い国際線ネットワークをさらに充実させることが重要。羽田空港の国際線増枠により成田空港の将来性に懸念の声がある中で、こうした国益にかなう政策展開が描き出されれば、これを払拭できるものと思料。
- 過去の約束事項を誠実に実施し、時間をかけて築いてきた地域との信頼関係を大切にしながら、騒音対策等をしっかりと実施して欲しい。
- 成田・羽田の一体的な活用のためには、交通アクセスの整備が重要。
- その上で、滑走路増設など機能強化について、国としての意思決定があり、そのために地域との協議が必要になった場合には、県としても役割を果たしていきたい。
- 羽田空港については、今ある騒音負担に対して、首都圏全体での騒音分担の観点からの選択肢が示されたと認識している。羽田空港の機能

強化にあたっては、騒音負担のしわ寄せが来ないようにしてもらいたい。

②千葉市 藤代謙二副市長

- 首都圏全体、さらに日本が発展していくうえで、羽田・成田の首都圏空港の機能強化は重要。
- 羽田空港については、これまで飛行経路にかかる騒音が千葉に集中しており、首都圏全体での騒音分担の観点から新たな飛行経路案が提案されたことは意義がある。
- 新たな飛行ルートによる運用は、一部時間帯に限られていることなど騒音負担は依然として大きいことから、今後、更なる騒音軽減策が是非とも必要である。

③成田空港圏自治体連絡協議会 小泉一成会長（成田市長）

- 羽田空港の国際線増枠で、成田空港は週 63 便減便となった。欧州路線の再強化や米国路線の集中は、アジアの他空港との競争からも必要。グローバルハブ空港としての地位が損なわれないようにご配慮をお願いしたい。
- 地域にとって成田空港はなくてはならない存在であり、その機能強化は、更なる雇用拡大や地域経済に大きな効果をもたらすもの。
- 成田空港の機能強化にあたっては、騒音地域住民の理解が不可欠。抜本的な移転対策や防音工事の充実等、思い切った対策が必要で、国からは、提案型の対策を示していただき、地域に丁寧な説明をしていただきたい。
- 道路アクセス、都心直結線の整備をお願いしたい。

(3) 神奈川県関係

①神奈川県 黒川雅夫副知事

- 羽田空港の更なる機能強化については、これまで要望してきたところであり、評価している。
- 一方、地域住民生活、企業や先端医療研究機関の活動に、騒音、振動などの面でどのような影響が生じるか懸念もしており、騒音や振動に関する詳細なデータを示して頂き、議論していきたい。

②川崎市 三浦淳副市長

- 羽田空港の発着容量拡大は、羽田空港を核としたまちづくりを進めている川崎市にとっても日本の発展においても重要なこと。
- 川崎市殿町地区には、ライフイノベーション国際戦略総合特区の拠点として、研究・開発拠点が集積。この地区を低高度で通過上昇するため、地元住民や企業に対する騒音や振動について懸念している。今後、騒音、振動等の影響について国からの丁寧で具体的な説明を要望。

③横浜市 渡辺巧教副市長

- 羽田空港を始めとした首都圏空港の機能強化の取組は大変歓迎。
- 飛行経路の見直しなど市民に理解頂くべき取組については、今後とも意見交換させて頂き、対応していきたい。

(4) 埼玉県関係

①埼玉県 塩川修副知事

- 新飛行ルート経路下の県南部・県東部の県民生活の安全・安心の確保に、強い関心を持っている。
- 県民の住環境を守る観点から、関係市町と連携して意見を述べてまいりたい。

②さいたま市 木下達則副市長

- 国際競争力の強化、訪日外国人旅行者の誘致等のため、羽田空港の機能強化については理解。
- 住民への十分な周知・説明とともに、協議会等を通じ、自治体の意見を踏まえ、柔軟な計画の変更及び対策の検討をお願いしたい。

(5) 茨城県関係

①茨城県 楠田幹人副知事

- 成田・羽田両空港の機能強化の重要性は理解。
- 成田空港の機能強化にあたっては、引き続き、飛行経路下の地域への騒音対策を着実に推進して頂きたい。
- 首都圏の多様な航空需要への対応として、また災害時への備えとして、

首都圏第三の空港である茨城空港を積極的にご活用頂きたい。県も、アクセス改善にしっかり取り組んでいるところ。

(6) 航空会社

① 全日本空輸株式会社 篠辺修代表取締役社長

- 成田・羽田両空港からの国際線事業を中心に成長していくという当社の事業戦略実現のためにも、首都圏の両空港が果たす役割は極めて重要であり、まずは、早急な機能強化をお願いする。
- 成田空港では、訪日需要、三国間需要といったグローバル需要と首都圏需要を取り込むネットワークを展開、羽田空港では、首都圏需要と内陸接続需要を取り込むネットワークを展開し、我が国経済の活性化に貢献していきたい。
- 本件は、関係自治体、関係各位のご協力、ご理解が不可欠であり、官民一体となって進めていきたい。
- 当社としても、全てに優先して航空機の安全運行に万全を期すことはもちろん、787等の低騒音機導入等、社を挙げてでき得る限りのご協力をさせて頂きたい。

② 日本航空株式会社 植木義晴代表取締役社長

- 機能強化の具体策が検討・協議されることについて大いに歓迎。
- 羽田は首都圏需要に加え、国内線との乗継にも対応、成田はアジア・北米間など国際線相互間の乗継も含めて対応していきたい。
- 都心へのアクセスの更なる向上のための新たな鉄道網の整備を含め、地上インフラの整備をお願いしたい。
- 空港使用料の低減、ターミナルビルの利便性・快適性の向上、出入国手続きの迅速化等の課題についてご検討頂きたい。
- 両空港の魅力向上のため、乗り継ぎの利便性の向上や、ビジットジャパンキャンペーンとの連携等、最大限のご協力を実施して参りたい。

(7) 有識者

① 東京大学・政策研究大学院大学 家田仁教授

- 首都圏は、日本を引っ張っていく最重要エンジンであり、空港容量が一杯になっていく事態を乗り越えなければならない。これは国家的な

使命である。

- 技術検討小委員会では、現時点で考え得る技術的な選択肢の洗い出しを行ったが、実現は簡単なことではない。
- 技術革新により航空機の騒音は格段に改善し、また、管制能力も向上するなど、技術環境は大きく変化している。昔の考え方の延長ではなく、騒音等の根本に立ち返って考える必要がある。
- 航空の競争相手である鉄道も努力して容量拡大等がなされてきたが、航空についても、いろいろな関係者が汗をかかなければならない。

②一橋大学大学院商学研究科 山内弘隆教授

- ご出席の皆様から、首都圏空港の機能強化の重要性を認識している旨ご発言があり、具体的に進めていく上で第一のステップをクリアしたと考えている。
- 都市の競争力という観点からも空港の機能強化は重要であり、また、空港が国際的なハブ空港となるためには都市の強さも必要。都市と空港は一体であり、両方の強化が重要。
- 空港のあり方を変えると受益と負担のバランスが変わるため、関係者間での合意が必要。そのためには、正しい情報発信が必要。

(8) オブザーバー

①成田国際空港株式会社 夏目誠代表取締役社長

- 首都圏の航空需要に対応するため、豊富な航空ネットワークやアジアと北米の結節点などの成田空港の強みを伸ばしていきたい。
- 滑走路整備等の機能強化について地域との共通認識を形成するため、地域と共に成田空港の将来像等について理解を深めることは大変重要で必要なステップと考えており、当社としても積極的に協力させていただきたい。

4. 今後の進め方

- 今後、様々なレベルで分かりやすく丁寧に説明するとともに、平成28年度概算要求を念頭に置きつつ、各自治体と個別に協議を開始させて頂く旨説明。